

原発事故被害者への賠償 ——逃げる東電、それを助ける国

3月に起きた東京電力福島第一原発事故の被害者への賠償がようやく本格的に始まろうとしている。問題だらけなのだが、ここでは、制度的枠組みと実際の補償手続きの両面を見ておくことにしたい。

まず、制度の方だが、前提として、既存の原子力損害賠償法が、事故を起こした原子力事業者の「無限責任」を原則としていることを押さえておかねばならない。今回のケースで言えば、発生した被害に対して、東電がどこまでいっても賠償金を支払い続けなければならない、ということの意味する。

しかし、被害のあまりの大きさからすると、当然にも東電を破たん処理する、ということにならざるを得ない。そこで8月3日に成立したのが、「東電救済スキーム」として批判されている原子力損害賠償支援機構法である。支援機構は、賠償の主体である東電の資金繰りを助けることになるが、支援機構自体の財政は、ほとんどが、交付国債など国からの支援によって賄われる。原子力事業者各社も機構に負担金を払い込むことになっているが、主な収入源ではない。他方で、東電の株主や、東電に融資している金融機関などは損をしない構造になっている。役員報酬の減額や社員の福利厚生施設の売却などは、本筋でない瑣末な論点にすぎないが、メディアはそちらの方に関心があるようだ。

枝野幸男は、官房長官だった時代、東電の債権者に一部負担を求める趣旨の発言をしていたが、新政権下で経済産業大臣になってからは、「東電を生かしながらかやるしかない」とトーンダウンしている。なお、支援機構は、9月26日、杉山武彦・一橋大前学長を理事長として、本格的業務を開始した。

次に、補償手続きの問題だが、これは、東電から請求書を送ってもらえた人と送ってもらえなかった人の2つに分けて考える必要がある。前者については、請求書本体が60ページ、案内書が160ページという、請求者の気持ちを萎えさせ

ることが目的としか思えない代物が発送されていることに、メディアがこの間注目している。ただ、それよりも重要なのは、いったん東電の書式による請求書を提出し、その後下手に東電との合意書に署名してしまうと、その他の法的救済手段に訴えることが難しくなる可能性があるということだ。日弁連が9月16日付でこの趣旨の声明を出している。

ところで東電の準備した請求書には、避難費用、帰宅費用、一時立入費用、生命・身体的損害、精神的損害など、あらかじめ決められた項目のみが書かれていて、それ以外の内容についてはこの書式では請求できないことになっている。その際の基準になっているのが、8月5日に政府の「原子力損害賠償紛争審査会」が出した中間指針だ。東電は、この中間指針で出されたラインに引きこもることによって、その他の賠償内容から逃げようとしているのである。

対象からはずされてしまったものの中で重要なのが、自主避難者に対する賠償である。東電は今のところ、政府の指示によって避難せざるを得なかった人々（警戒区域、計画的避難区域など）のみを賠償請求者として考えている。というのも、上記審査会が、中間指針の段階では自主避難を賠償対象に含めるかどうか結論を出さなかったからだ。

私は、最近2回の審査会の審議を傍聴したが、自主避難者に何らかの形で賠償を認めるべきという点で委員はほぼ一致している。しかし、その範囲を比較的広く取ろうとする能見善久会長（学習院大学法務研究科教授）に対して、数名の委員が、低線量の被ばくで済むような最近の段階では、「除染をすれば線量が下がる」とか「避難しない決断をした人の方が多い」などの理由をつけて、賠償をほとんど認めない方向で反論を試みるなど、激しいせめぎ合いがある。この数週間が勝負のようだ。

（山口響／福島原発事故緊急会議）

またしてもデモで逮捕。今年、これで何件目で何人目の逮捕者なのだ？ 逮捕されたAさんも、Bさんも、Cさんも、Dさんも、あるいはEさんもFさんも、その他の人も、デモという私たちのわずかな、街頭における示威行為の権利を行使していたにすぎない。▶デモはあらためていうまでもなく、憲法で保障された私たちの「表現の自由」に発している。多くの人々と手を取り合って声を上げ、街頭を歩いて主張を掲げると

憲法喧嘩

いう、誰にもできる最高に解放的な万国共通の表現形態なのだ。▶警察権力はこの解放的な街頭表現が嫌い。いや、示威行為そのものが許せないのだ。政財界の意向に沿わない都合の悪い言説を、街頭で主張されることへの忌避感。だがそれは、逮捕の理由には断じてならない。そういったことがまかり通る状況を、まさしく日本社会の現在がそうであるが、非民主的社会というのだ。もっと自由を！ である。（大）

相次ぐデモへの弾圧を許すな!

最近、さまざまなデモへの弾圧がひどい。正当な理由もなく、ひたすら過剰な規制を加え、路上での自由な表現をおしつづけることが日常化している。それにたいして、自分たちの言いたいことを、自分たちの流儀で言っていこうという動きが絶えず生まれ、それに対してまた、権力の憎悪がむき出しにされる。

9月11日に新宿で行われた「9・11原発やめろデモ!!!!」に、警察権力は12人もの大量逮捕をもって応えた。当初のデモ申請の出発地点とデモコースは一方的に変更させられ、デモの隊列も寸断され、圧縮され、参加者にたいして身体を押ししたり突き飛ばしたりという暴力行為が続いたという。そのようにして権力によって作り出された「混乱」のなかで、「違法なデモを指揮した」「暴力を振るった」などの「罪状」が一方的に押しつけられ、多くの参加者が逮捕されたのだ。

3・11以降の現実の中で、反原発の運動が拡大してきたこと、そのことに対する直接的な破壊を狙った弾圧であることは明らかである。さまざまな行動が取り込まれるなかで、とりわけデモそれ自体における「解放性」を追求してきた部分が弾圧された。そして、逮捕された人びとは特異な「過激派」として描き出される。逮捕されるのはそれなりの理由があるからだという「常識」を煽りながら。

まったく転倒している権力のこうした姿勢ばかりが、この間ますます露骨になっている。9月23日の「差別・排外主

義にNO! 9・23行動」における参加者の逮捕もとんでもないものだった。警察のデモ隊への介入は激しかったが、逮捕された人は外に見えるように両手でバナーを持って歩いていただけだ。それなのに「警官を殴った」として、まるで拉致されるようにして逮捕されたのである。そばにいたのに気づかない人もいたくらい、わけのわからない逮捕だったという。これは反原発を直接の課題としたデモではなかったが、逮捕された人は、反原発運動にも積極的に参加しており、完全に狙いうちにされたとしか考えられない。

主催者も、参加している層も、そして規模もまるで違うふたつのデモ。それは、いま、さまざまに取り組みられている多くの行動のふたつにすぎない。そしてこのふたつのデモへの露骨な弾圧は、このふたつが「特殊」であることを決して意味しない。ある局面においては、排外主義的な「市民右翼」すらも「動員」しながら、あらゆるデモを整序し、管理していこうとする権力の意思がある。それはまさしく、反原発のうねりを押さえつけ、再びわれわれを3・11以前の秩序へと回帰させていこうとする政治意思と通底するものである。たとえその顔つきや態度は異なっているとしても、いかなる行動に対しても示されるであろうそうした意思に対して、私たちもつねに敏感でありたい。

(北野誉／反天皇制運動連絡会)

「君が代」強制大阪府条例はいらん! 全国集会に762人が参加 「教育基本条例」「職員基本条例」案阻止へ、さらに闘いを強めよう

全国集会に先立って、9月20日には、「君が代」条例撤廃! 「教育基本条例」「職員基本条例」を許すな! 府庁包囲行動が行われた。主催は、全国集会と同じ「日の丸・君が代」強制反対ホットライン大阪・全国集会実行委員会。大阪城公園教育塔前広場に200人が結集した。

集会では、「日の丸・君が代強制処分条例に反対する弁護士会の会」の児玉憲夫弁護士(元大阪弁護士会会長)が、「2条例は憲法違反の疑いがある」と条例案を批判したほか、参加団体からそれぞれ条例案阻止に向けた決意が述べられた。府庁包囲デモに移ると、参加者は大阪教育合同労組が作成した「君が代」条例反対のうちわを手にして、力強くシュプレヒコールを府庁に向けて浴びせかけ、秋の闘いを出発させた。

そして9月24日、大東市の総合文化センター・サートィホールで開かれた「君が代」強制大阪府条例はいらん! 全国集会は、北海道から北九州・大分まで、文字通り全国からの仲間を迎え、762名の参加で大きく盛り上がった。右翼、在特会による妨害・嫌がらせの中、警察の予想を超える結集をかちとったのである。

集会では、まず高橋哲哉さんが「教育基本条例は『教育破壊条例』である」「知事が目標を決定し、知事→教委→校長→教員と上意下達で、教委以下はすべて知事の手駒・ロボットにすぎないものになる」「民主主義とは独裁であるという橋下知事」の思想で、大阪の教育を破壊させてはならない」と条例

案を批判。

また、野田正彰さんは「橋下知事が任命した教育委員すら条例に対して激昂している。これは、橋下知事に何か可能性を見いだしたが、その延長には教育が破壊されると気づき、大きな幻滅を感じているのではないか」と指摘した。

宮城から参加した小学校教員は「地震と原発事故以降、深呼吸ができない日々が続いている」と被災地の現状を訴え、「大阪の条例が通ったら、学校が破壊される」とともに闘う決意を述べた。大阪からは、保護者、大学生、労働組合、教育労働者(3名)の順に発言があり、山元一英・全港湾大阪支部書記長は「反ハシズム統一戦線で、橋下知事を落選させよう」と訴えた。

集会の最後に、全国署名が1万筆を超えたことが紹介され、この署名を添えた議会請願や大阪府議会各会派、各議員への働きかけを強めるとともに、条例案の廃案、「君が代」条例の撤廃に向けて、さらに大きな拡がりを持った運動を展開していくことを参加者一同で確認しあい、集会を終了した。

維新の会内部でも、「競争・管理主義を教職員や生徒・保護者に徹底する狙いがある」「子どもたちは将来、マニュアル通りにしか動けない大人へと成長してしまう」と条例案を批判する大阪市議が出るなど、意見の不一致や動揺がみられる。闘いの可能性が大きく拡がろうとしている。

(寺本勉／「日の丸・君が代」強制反対ホットライン大阪)

10・15 横田基地もいらない! 市民交流集会へ

昨春秋、緊迫する沖縄の闘いに連帯し、横田基地をめぐる問題に改めて関心を高めようと、多くの団体個人の賛同を得て、福生市民会館大ホールで「沖縄とともに声を上げよう、横田基地もいらない10・9市民交流集会」を開催しました。メインの集会には600人を超える参加があり、成功させることができました。

集会後、大雨の中、ずぶぬれになりながらも、基地に向かってデモ行進を行い、基地撤去への決意を示しました。このとりくみに賛同、ご協力頂いたみなさまに心からお礼申し上げます。

さて、ますますその危険な役割を深める米軍基地横田と、そこに航空自衛隊基地(航空総隊司令部)が新たに設置され、日米軍事一体化が名実共になされた「横田基地」に対して、横田市民交流集会実行委員会では、集会を単発的なものとせず、持続させ、広げていこう、そのために実行委員会を継続・発展させていこうと話し合い、この秋に、再び横田での集会を計画し、その準備を進めてきました。

これを本当に成功させ、沖縄の県民ぐるみのたたかい、首都圏での粘り強いたたかいに連帯し、米軍基地撤去を東京のたたかいとして本格的に発展させて行くには、この趣旨に賛同してくださる団体、個人を大きく結集し、これを主催する実行委員会を充実・前進させることがどうしても必要であると考えました。

こうした見地から、三多摩の諸団体はもとより、全都規模で平和運送・労働運動・民主運動などで奮闘されている団体、市民のみなさまに、本実行委員会への参加、とりくみへの賛同・資金面の協力を呼びかけさせて頂いています。

団体ではしかるべき機関などでご検討頂き、本実行委員会への参加・賛同・資金面での協力、宣伝チラシに活用などを決めて頂き、ご支援頂きたいと念願するものです。

個人のみなさまにも、集会への参加、実行委員会への参加、資金援助などに積極的なご協力をねがいます。

2011年7月

10・15横田基地もいらない市民交流集会実行委員会

連絡先:事務局 070-6558-1866

横田基地もいらない市民交流集会

午後1時開会／福生市民会館大ホール(JR青梅線牛浜駅下車)／入場無料

●講演:伊波洋一さん(前宜野湾市長)「米軍基地撤去の闘いと日米地位協定」(仮題)

●活動の交流 軍事基地撤去にむけた横田・座間などの活動

●デモ行進 4時終了予定

(10:30から沖縄の闘いを記録したDVDを上映します、ご覧ください。「やんばるからのメッセージ」「辺野古不合意」)

響かせあおう死刑廃止の声 2011

3・11の震災で2万近い人命が失われ、福島原発事故では多くの人々が生活の基盤を失い、放射能による健康障害への不安を抱えながら生きることになった。この災厄で命の尊さをみんなが実感したその後も、死刑判決は出続けている。逆に原発事故の責任のある東京電力は刑事罰を負わされることさえない。

フォーラム90では世界死刑廃止デーの10月10日周辺の日「響かせあおう死刑廃止の声」と題して毎年、集会を持ってきた。今年は、3・11を通して死刑問題を考察する辺見庸講演「それでも死刑は必要なのか 3・11の奈落から」から始まる。ついで恒例の大道寺幸子基金表現展に応募した死刑囚たちの表現作品をめぐって、池田浩士、加賀乙彦、川村湊、北川フラム、坂上香、太田昌国選考委員とゲスト選考委員・香山リカというメンバーでシンポジウムを行う。応募作品は会場に展示する。

フォーラムでは今年120人の死刑確定者へアンケートを実施したが、彼らの声を朗読劇構成で発表する。これは3年ぶりの企画で80名以上から回答があった。彼らの生を知ることが死刑廃止に繋がるからだ。

集会は10月8日2時開演で、牛込筆筈区民ホール、混雑が予想されるので事前にFAX03-3585-2330へ、枚数、お名前を明記してご予約下さい。

※

9月2日、野田内閣が成立し、平岡秀夫衆院議員が法相に

就任した。彼は就任記者会見で「死刑のあり方に関する法務省内の勉強会の中身をよく勉強して自分の考えをまとめていきたい」「考えている間は当然執行できない」と語った。執行をしばらく停止すると受け取れるこの発言に、9月27日の衆議院予算委員会で河井克行議員(自民)が噛みついた。まず死刑執行命令書に署名をしない可能性の高い人物を法相に任命した首相の責任を問い、法相には「死刑は法の定めるところにより慎重かつ粛々と執行していきます、それだけ言っていただけばいいんですよ」と迫っている。

千葉景子法相が執行をしたのが昨年7月28日、それから兼任の仙石由人法相、死刑に否定的な江田五月法相と1年2カ月、執行は止まっている。私たちは平岡法相が執行命令書に署名さえしなければ、今年を執行ゼロの年にすることができるし、それをなんとしても追求して行かねばならないと考えている。執行停止期間が長ければ長いほど、執行再開はやりにくくなるからだ。

そのためフォーラム90ではアムネスティ、監獄人権センターと10月5日、法相に会い要請を行う。法相の責務として執行せよとの圧力に抗し、執行停止の意志を支えるためにも頻りに働きかけていかねばならない。だから法相の地元・岩国でも11月6日午後2時から岩国市民ホールで集会をもち、法相地元事務所への要請行動も行う。こちらにもぜひご参加下さい。

(深田卓／死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム90)

憲法映画「太陽と月と—私たちの憲法の人々の情熱」上映会開催

未曾有の災いを憲法による人権感覚を磨くチャンスに

3・11に向き合うとき、何が頼りになるだろうか……。

こう問いかけて憲法映画「太陽と月と」福原進監督作品の上映運動がスタートして半年。いよいよラストスパートを迎えている。①改憲反対の人、②改憲推進の人、③憲法を空気のように意識せずに暮らしてきた人、つまりわれわれ国民は、今日の状況をどうとらえているのか、いまだに全体像がつかみにくい。

はっきりしているのは、憲法を山のように積み上げても、巨大地震や大津波を止められない。明白なことである。人類の歴史のどこにも、憲法の力で天災を防御した記録がない。しかし、その被害を減災し、復旧・復興の進め方で被災地や被災者によりよい人間的なアプローチがどこまで遂行しえたかは、憲法制定以降の戦後史だけでも検証が可能である。つまり憲法理念を具現化する人権感覚の発露や「権利のための闘争」は、危機的状況においてこそ真価を発揮して、命運を分けてきたからである。

風に任せて生きてきた自分を写す“鏡”

天災と人災（東京電力福島第一原子力発電所の過酷事故による社会的災禍）が複合した3・11では、①、②、③のどなたも戸惑いを隠していない。一部に悟ったような言説で責任回避に情熱をあらわにした方、そして茫然自失の人もおられるが、その能面の裏に揺るぎの表情が覗く。無理もない。かつて人類史上、いかなる国も人も遭遇したことがない現在進行形の事態で、収束の見通しすら立たない。情報過多に見え

て真実に迫りえていないからだ。

さらに放射能汚染は見えず、匂わず、音もなく忍び寄る又工のように厄介で、学説に多少のブレがあるものの晩発性の癌などの顕在化がいずれ白日のもとにさらされるだろう。「お金が憲法よりも頼りになる」と災厄を奇貨として、「風評被害」などと喧伝している方々も、憲法を暮らしに内実化しないまま風に任せて生きてきた自分（組織など）を省みる“鏡”をもたない。

いまや一人ひとりの個人ばかりか、世界、国家、地域までもが揺らぎの中にある。われ先に逃走しても、おそらく逃げ切れないだろう。動揺や憂いが形を変えて追ってくる。「せめて自分だけでも大丈夫に！」と己を叱咤しても、“漠たる不安”にかられるのではあるまいか。

冷厳な歴史に眼をそらさず、お互いに「正気を失っていないか」を自問するひとときをもちたい。寄席や音楽、旅行などもよい。もっと効能が持続して文明史的転換を促すのが憲法誕生のドキュメンタリー映画「太陽と月と」である。

月にウサギが見えなくても、「揺るぎの時代を生き抜く」光をもらえるだろう。

（矢間秀次郎／千曲川・信濃川復権の会共同代表）

「太陽と月と—私たちの憲法の人々の情熱」上映会

10月22日14時～／小金井市民交流センター◆前売券1000円、氏名・住所・TELを明記してFAX042-381-7770へ。定員578人で当日券1,200円は販売中止！

原発を読む◇『フォト・ルポルタージュ 福島 原発震災のまち』

豊田直巳 著／岩波ブックレット／800円＋税

福島原発事故（それは今も続いており、放射能はたれ流され続けている）の体験を通して、原発事故は発生直後の数日の対応が決定的に重要であり、長くとも1週間から10日が勝負であるという事実を、恐怖とともに実感し続けたと思う。

豊田直巳の『福島 原発震災のまち』（フォト・ルポルタージュ）は東電も政府も、この重要なタイミングでまったく無策であった事実を、わかりやすくルポしている。

第1章「終わりの見えない恐怖へ」、第2章「漂流する避難民」、第3章「放射能に襲われた『まじい』の村」、第4章「津波と原発震災」までが事故直後から車で福島へ向かったフリー・ジャーナリスト豊田の1カ月間の時間に収まる被災地現地体験ルポである。

著者は、高い放射能がふりまかれている地帯に放り出されたままの住民との対話を通して、東電の不誠実、政府の無策、無責任を実感し、驚いている様がよく読める。日本政府は、棄民国家という伝統をいまも生きていることが、読者である私たちにも強く実感できる、貴重なレポートだ。

多数収められた現地の写真もリアルに被害状況を実感させるものだ。マスコミにはすべて隠され露出していなかった「死体」が撮影されたものも1枚収められている。本文のなかで、この写真について著者はこう語っている。

「瓦礫の間を歩いていた私は、一緒にいたJVJAの仲間か

ら『遺体がある』と声をかけられた。瓦礫の間から人間の足がのぞいていたのだ。それもアスファルト道路の脇で、である。そこを通れば、誰でもその遺体に気づいたはずだ。震災から三週間、この場所では行方不明者の搜索も、遺体回収もなされていなかったのだ。私は仲間と、瓦礫の中からジャンパーと竿を見つけ出し、目印の旗をつくって、その場を離れた。重機でもなければ、遺体は掘り出すことはできそうになかった。／翌日、私は二本松市に開設されていた浪江町の臨時町役場に電話した。電話口の向こうの担当者に遺体を発見したこと、そして場所と目印を告げた。そして、遺体回収をお願いした。私の言葉を静かに聴いていた担当の女性は『ありがとうございます』と礼を述べた後、思いがけないことを言った。「私たちも、行方不明者を捜している方々や遺族の方々も、搜索や遺体の回収を願っています。でも、私たちもそこへは入れないのです。警察や自衛隊をお願いしてるのですが、まだ搜索も始まっていません」。

ラストの第5章「原発で 手足ちぎられ 酪農家」には、3カ月後の「六月一二日」夜、相馬市の酪農家の自殺についても、写真つきで細かくレポートされている。書き残された言葉もすべて収められている。

『「馬鹿につける薬なし、原発で手足ちぎられ酪農家」の言葉が痛々しい。

（天野恵一／事務局）

反改憲ニュースクリップ

2011年9月16日～9月30日

産経新聞が日米安保改定提言

【9月18日】〈岩国基地〉海上自衛隊岩国航空基地の基地祭で、基地政策に批判的な田村順玄・岩国市議が、海自側に「米軍の指示」を理由に退出させられた。

【9月20日】〈憲法解釈〉野田佳彦首相が、政権の憲法解釈などを問われた際に答弁者となる法令解釈担当を、平岡秀夫法相から枝野幸男経済産業相に変更するよう閣議で指示した。枝野は菅内閣時に答弁担当者を務めていたが、答弁者を急きょ差し替えるのは異例。

【9月21日】〈スーダンPKO〉野田首相が国連本部で潘基文国連事務総長と会談し、南スーダンの国連平和維持活動(PKO)に陸上自衛隊施設部隊の派遣を検討するため、近く調査団を派遣すること、それとは別に陸上自衛隊司令部要員2人を送る方針を表明した。

【9月22日】〈安保改定提言〉産経新聞が日米安保条約の再改定案をまとめた。条約の対象を極東からアジア太平洋地域に広げ、他の同盟・機構や友好国とのグローバルな連携協力もうたった。集团的自衛権が固有の権利であることも明記した。また、日米ともに相手国の施設・区域を使用できるよう改め、必要なら日本の自衛隊が米国内の施設などを使用できるようにした。**〈日米MD共同開発〉**防衛省は、米国と共同開発しているミサイル防衛(MD)システムの海上配備型迎撃ミサイル(SM3ブロック2A)について、2014年度まで9年間の予定だった開発期間を2年程度延長すると発表した。

【9月24日】〈スーダンPKO〉政府が、南スーダンPKOへの陸自施設部隊の派遣に向け、現地調査団を出発させた。外務、防衛両省と陸自、内閣府国際平和協力本部事務局の約30人で、25日にスーダン入りし、1週間でジュバなど2カ所で治安情勢やインフラ整備のニーズ、燃料の補給ルートなどを調べる。**〈慰安婦〉**玄葉光一郎外相が韓国の金星煥外交通商相とニューヨーク市内で初めて会談した。金通商相は、日本の植民地時代の慰安婦問題の賠償請求権問題に関する協議を始めるよう求めた。これに対して玄葉外相は「請求権問題は解決済み」とした上で「この問題が日韓関係に悪影響を及ぼさないようにしたい」と述べた。

【9月26日】〈外国人参政権〉野田首相が衆院予算委員会の答弁で、在日外国人への地方参政権付与に関して「慎重な立場だ。(参政権を国民固有の権利とした)憲法15条にのっとると疑問がある」との見解を表明した。**〈原発〉**福島第一原発事故の被害者への賠償金支払いを進めるために創設した「原子力損害賠償支援機構」の開所式が行われた。

【9月27日】〈原発〉内閣府原子力委員会が、国の原子力政策の基本方針となる「原子力政策大綱」の改定作業を行う有識者会議を半年ぶりに再開した。福島第一原発事故で作業が

中断していた。1年以内をめどに新大綱をとりまとめる方針。脱原発を主張している金子勝・慶応大教授らがあらたに委員として加わったが、委員28人のうち脱原発派は依然として少数派。**〈原発〉**経済産業省は、福島第一原発事故を受け、中長期のエネルギー政策の見直しを議論するため、総合資源エネルギー調査会(経産相の諮問機関)に基本問題委員会を新設すると発表した。飯田哲也・環境エネルギー政策研究所長、伴英幸・原子力資料情報室共同代表、大島堅一・立命館大教授ら、原発政策に批判的な委員も起用された。**〈原発〉**枝野幸男経済産業相は、衆院予算委員会で、運転停止中の原発の再稼働について、来年度の原子力安全庁発足を待たず、年度内に認めることもありうるとの考えを示した。**〈原発〉**細野豪志原発相が、福島第一原発事故を受けた損害賠償について、同原発周辺に設定された緊急時避難準備区域の指定解除は賠償に影響せず、避難住民の帰宅が完了するまでの期間を賠償対象とすべきだとの考えを示した。**〈原発〉**東京電力が、福島第一原発事故で被害を受けた事業者が同社に賠償請求するための必要書類の郵送を始めた。個人向けに郵送した書類では、東電との間で取り交わす合意書の見本に「一切の異議・追加請求を申し立てることはありません」と記載し批判を浴びたため、今回は合意書ではこの文言を削除すると説明する書面を同封した。

【9月28日】〈原発〉スイスの上院が、国内にある原発5基の稼働を2034年までに段階的に停止し、更新を禁止する政府方針を承認した。国民議会(下院)は6月に承認済みだが、条文が一部修正されたため、法案は国民議会での再可決を経て成立する。

【9月29日】〈憲法審査会〉民主党は参議院議院運営委員会議事会で、参院憲法審査会の委員名簿を次期臨時国会冒頭に提出する方針を表明した。**〈馬毛島〉**米空母艦載機陸上離着陸訓練(FCLP)の移転先候補の西之表市・馬毛島を所有する「タストーン・エアポート」に対し、鹿児島県が開発状況やマゲシカなどの調査受け入れを求めている問題で、同社は、砂利採取法と採石法に基づく調査のみ認め、滑走路開発やマゲシカの調査は拒否する回答書を29日までに県に送った。**〈原発〉**環境省が、福島第一原発事故による放射性物質の除染や汚染がれきの処理で、少なくとも1兆数千億円の経費がかかるとの見通しを示し、2012年度概算要求に関係費用4536億円を盛り込むことを明らかにした。除染後に発生する汚染土壌や汚染廃棄物の中間貯蔵施設整備費、高濃度汚染地域の対策費用は含まれず、今後さらに数兆円かかる可能性がある。これとは別に、2011年度第3次補正予算で2459億円を計上する予定。

【9月30日】〈原発〉政府が、福島第一原発事故を受けて設定された緊急時避難準備区域を解除した。対象は広野町全域、南相馬市、田村市、楢葉町、川内村の一部で、対象住民計約5万9000人のうち、約3万人が旧区域外で避難生活を続けている。5市町村が想定する帰還時期は、除染にめどが立つ来春以降で、除染が進まないうちから指定を解除したことが強く批判されている。**〈原発〉**文部科学省の藤木完治・研究開発局長が高速増殖原型炉「もんじゅ」が立地する福井県敦賀市と同県庁を訪れ、今年度予定していた試験運転「40%出力試験」の実施を見送ることを伝えた。

12 私も一言 138

矢部慶喜 (フリージャーナリスト)

「若者つぶし」には屈しない

「原発いらない!」「原発反対!」そんな当たり前の表現が今の日本では弾圧の対象になっている。尋常ではない。さらに弾圧の対象になっているのは明らかに若者である。そこがさらに大きな問題なのだ。

最近の脱原発アクションなどを見ると、以前から様々な活動を行ってきた方々と共に、今まで活動経験のない人、特に20歳代、30歳代の人たちが積極的に集会やデモに参加するようになってきている。私もそのうちの1人だが、集会など

に参加していると、経験ある人たちの話を聞き、共に行動することで今後の私自身の活動に大きな道筋を示してくれているといつも感じている。と同時に、おこがましい話だが、私たち新人の参加自体が経験ある人たちに良い刺激を与えているのではないかとも思っている。まさに「温故知新」。その重要性を実感している。

また、これからの世の中、脱原発社会を実現してそれを後生につなげていくのは、20歳代を中心とした若者なのだ。しかし、9月11日の大量逮捕でも分かるように、その若者の「表現の自由」が不当に規制されている。規制をする側としては、若者だからこそ規制しているのだろう。「若い芽を潰す」ということなのだ。権力側の未来のために。しかし、私たちはそんな不当弾圧に負けてはならない。3月11日という大きなものでやっと日本、世界のシステムの矛盾に目覚めた人間なのだ。

今後も経験ある方々から様々なものを吸収し、助けを受けながら成長していかなければならない。そのためには、「表現の自由」などの基本的な人権に対する不当な弾圧に屈せず、自らの意思を叫び続ける必要がある。

集会・行動情報 10/7 ~ 10/23

▶ 10/7 (金) 原爆・原発・放射能「世界核被害者大会」広島開催をめざして ◆ 18:30 ◆ 横原由紀夫 (元広島原水禁事務局)、セバスチャン・フルークベイル (ドイツ放射線防護協会会長) ◆ 広島市中区地域福祉センター (大手町平和ビル) ◆ 500円 ◆ 核兵器廃絶をめざす広島一会

▶ 10/8 (土) シンポジウム「響かせあおう死刑廃止の声2011」 ◆ 13:00 開場 ◆ 講演: 辺見庸 ◆ シンポジウム「死刑囚の表現作品をめぐる」: 池田浩士、加賀乙彦、川村湊、北川フラム、坂上香、太田昌国、香山リカ ◆ 牛込筆筈区民ホール (東京メトロ東西線神楽坂駅、都営地下鉄大江戸線牛込神楽坂駅下車) ◆ 当日券: 1500円、前売賛同券: 1000円 ◆ 死刑廃止条約の批准を求めるフォーラム90 (港合同法律事務所03-3585-2331) (※3ページ参照)

▶ 10/12 (水) ベーベル・ヘーンさんを囲む会 ◆ 18:00 ◆ お話し: ベーベル・ヘーン (ドイツ緑の党副代表・連邦議員)、司会: 高橋順一 (早稲田大学) ◆ スペースたんぽぽ (JR総武線水道橋駅下車) ◆ 1000円 ◆ 呼びかけ: 情況出版 (大下)、反原発自治体議員・市民連盟など、協力: たんぽぽ舎

▶ 10/14 (金) グローカル座標軸第1回「いま蘇える反原発の思想——高木仁三郎と松下竜一」 ◆ 18:30 ◆ 講師: 白川真澄 ◆ 文京シビックセンター3回会議室C (東京メトロ後楽園駅、都営地下鉄春日駅下車) ◆ 1000円 ◆ 連絡先: 工人社

▶ 10/15 (土) 横田基地もいらない市民交流集会 (※3ページ参照)

■ サンフランシスコ講和条約・日米安保締結から60年——日米安保体制・核 (兵器・原発) 問題の源流と現在を問う ◆ 17:45 開場 ◆ 講師: 浅井基文 (元外務省、元広島平和研究所所長) ◆ 文京区民センター2A会議室 (都営地下鉄春日駅下車) ◆ 資料代500円 ◆ 反安保実行委員会

■ 第64回市民憲法講座「TPP参加はなぜ危ないか」 ◆

18:30 ◆ 講師: 山浦康明 (日本消費者連盟事務局長) ◆ 文京区民センター3C会議室 (都営地下鉄春日駅下車) ◆ 800円 ◆ 許すな! 憲法改悪・市民連絡会

■ 報道カメラマン 石川文洋講演会「私が見た戦争と平和」 ◆ 18:45 ◆ 大田区民プラザ小ホール (東急多摩川線丸子駅下車) ◆ 700円 ◆ 大田たまがわ九条の会

▶ 10/16 (日) 反貧困世直し大集会2011・震災があぶりだした貧困 ◆ 10:00 ~ ◆ 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎 (JR・地下鉄市ヶ谷駅下車) ◆ 同実行委員会

▶ 10/22 (土) 東京の教育を変えよう 学校に教育と人権を! 集会 ◆ 17:45 開場 ◆ 講演: 斎藤貴雄、澤藤統一郎、特別報告: 「大阪府『君が代』強制条例の撤廃を求める」、「日航「整理解雇」との闘い」 ◆ 全電通会館ホール (JR・東京メトロ御茶ノ水駅、東京メトロ新御茶ノ水駅下車) ◆ 資料代: 500円 ◆ 16団体 (10・23通達関連裁判訴訟団)

▶ 10/20 (木) スペースたんぽぽワンコイン上映会『グリーンナムの女たち』 ◆ 19:00 ~ (開場18:30) ◆ ゲスト: 近藤和子 (映画・本『グリーンナムの女たち』訳者) ◆ 500円 ◆ スペースたんぽぽ (03-3238-9035)

▶ 10/23 (日) 第6回浅草ウォーク (戦後補償のゆがみを正し、すべての人びとが分かち合える平和を求める浅草ウォーク) ◆ 集会13:30 ~ ◆ 台東区民会館9階 (都立貿易産業センター内) (東武線・東京メトロ・都営地下鉄浅草駅下車) ◆ デモ出発15:30 ◆ 花川戸公園 (台東区民会館並び) ◆ 浅草ウォーク実行委員会 (<http://1021asakusa.nobody.jp/>)

■ 止めよう原発 核のない世界へ! なくそう非正規労働 全ての争議勝利! 作り出そう 戦争と貧困のない社会を! 第25回団結まつり ◆ 10:00 ~ ◆ 亀戸中央公園B地区 (東武亀戸線亀戸水神駅下車) ◆ 10・23団結まつり実行委員会 (03-3267-0156)